

### 静岡

三島市は、富士山からの湧水が随所にせせらぎを生み出し、JR三島駅から徒歩1分の市立公園楽寿園には多くの木々が生き茂り、若葉が気持ちの良い木陰をつくっている。また、いにしへの歴史・文化の息吹が薫る三嶋大社は今も変わらず街道を見守っている。

この素晴らしい街の環境を磨き、次世代に受け継いでいくため、同市では1996年から市民、企業、NPOなどが協働し、市街中心部の水辺や緑の自然空間、歴史・文化などを活用、「歩きたい街」、「住みたい街」をつくる「街中がせせらぎ事業」を進めてきた。これまでも富士山からの湧水が流れる源兵衛川の散策道の整備、やすらぎを感じるJR三島駅前広場の整備や三島大通りの電線地中化など、憩いと開放感のある景観整備に取り組んできた。

同市では現在、観光振興や商業振興を通じた地域活性化策のひとつとして、市民や「みしま」を訪れる人々に憩いを与える美しく品格のある街、「ガーデンシティみしま」の取り組みを進めている。水辺や遊歩道などの美化保全とともに、世界文化遺産となった富士山から届く湧水のせせらぎと街路の緑、そして

街角には花の彩りが添えられ、人々が憩いを覚える街を目指している。

こうした取り組みを内外に紹介する「第20回全国花のまちづくり三島大会・みしま花のまちフェア」が、5月31日、6月1日の2日間にわたって市内各所で開催された。大会では、市内外の花を生かしたまちづくりを進める団体の事例発表や、コメンテーターとしてもお馴染みの造園家涌井雅之さんによる基調講演に、県内外から来場の約900人が耳を傾けた。

イベント当日は、楽寿園や白滝公園、商店街などの店先が普段にも増して季節の花や緑で華やかに彩られ、さらに明るく楽しい2日間となった。多くの市民や観光客が花にちなんだ催しや花飾りの展示、苔玉づくりや親子で楽しむフラワーデザインなどの体験を楽しみつつ、街歩きを楽しむ姿に笑顔があふれていた。また、市内の花の見どころを散策する様々なウォーキングや市内の会場を巡るスタンプラリーなども開催され、水と緑と花を楽しみながら市民や多くの観光客が市内を散策する姿で賑わった。

楽寿園と三嶋大社をつなぐ桜川沿いには、幼稚園・保育園の園児が育てたペチュニア約3千鉢が並び、そこかしこで、3世代で記念写真を撮る微笑ましい姿が見られた。今回のフェアは、身近にある花や緑が人々にやすらぎと癒しを与え、笑顔の輪が街中にあふれる大会となった。

「ガーデンシティみしま」で力を入れているのが「ごみのないまち」の実現だ。同市では毎月1回、ボランティア約50名が市内の美化活動を行っているが、イベント期間中は延べ500名を超えるボランティアが清掃作業に加わり、市民が自分たちの街を美しく保とうという高い意識が伺われた。

富士山の世界文化遺産登録で「みしま」を訪れる観光客も増えつつあり、同市は6年後の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国内外からの多くの人々が訪れる美しい街を目指している。

「みしま」は“非日常体験”を提供する有名観光地ではない。水と緑に寄り添う日々の暮らしの「ちょっとイイね!」を身近に感じられる街として、近郊の人々や観光客を惹きつけるために、これからも市民、企業、NPOの協働に市民の理解と参加を得て、「みしま」の魅力を高めていくことが求められている。

## 「全国花のまちづくり三島大会 みしま花のまちフェア」開催



花に囲まれやすらぎを楽しむファミリー